Catalog 18-#6

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ１２/３０までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（初の年末のカタログ）
*年末の慌ただしいときに通販カタログをお届けして申し訳ありません。12 月の半ばのカタログ発行はおそらく初めてではないでしょうかね。10 年、20 年前だったら、考えられないことでしたが、幸か不幸か今はゆっくり仕事が出来る状態なので、仕事が年末･年始に及んでも、いつも通りの年末･年始が迎えられようかと思っています。今回のカタログからの注文の発送が終わり次第、少し冬眠しようかと思っているところです。
*前回は女性シンガーのＣＤがかなり充実していましたが、今回も今年のベスト級のが揃っていて、数は少ないですが、かなり充実しています。特に未発表曲 CD 付き二枚組の Alela Diane、Emma Marshall の新作、Coleen Raney の新作は一押しです。今回は男性ＳＳＷもバンド物も充実しています。
*今回も「最近入荷」中心のカタログをお届けします。

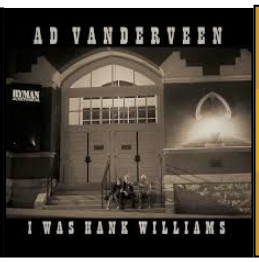
（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 2 月 15 日まででＯＫです。

＊TOP　30　SELLERS(18－#5)＊
1)SANS:Kulku(Finland,England)
2)HELEN DIAMOND:Helen Diamond(Ireland)

3)DONNIE FRITTS
　:June - A Tribute To Arthur Alexander(USA)
4)ELIZA GILKYSON:Secularia(USA)
5)KARINE POLWART:Laws Of Motion(Scotland)
6)STEPH GEREMIA:Up She Flew(Ireland)
7)RICHARD THOMPSON:13 Rivers(England)
8)THE HELEN FLAHERTY BAND:Gazing At The Moon(Flanders)
9)MARGRETE NORDMOEN:Skal Du Langt(Norway)
10)MISSY RAINES:Royal Traveller(USA)
11)MAEVE MACKINNNON:Stri(Scotland)
12)FARA:Times From Times Fall(Scotland)
13)OKRA PLAYGROUND:Aaneni Yli Vesin(Finland)
14)KATHY MATTEA:Pretty Bird(USA)
15)BRIAN O hEADHRA & FIONA MACKANZIE:Tir(Scotland)
16)LATA DONGA:Variacijas(Latvia)
17)KITTY MacFARLANE:Namer Of Clouds(England)
18)MARIA MULDAUR:Don't You Feel My Leg(USA)
19)BOB FOX & JOHN TAMS:A Garland For Joey(England)
20)COURTNEY HARTMAN & TAYLOR ASHTON
　:Been On Your Side(USA,Canada)
21)JOSEPHINE MARSH:Music In The Frame(Ireland)
22)AR LOG:Saith VII(Wales)
23)ENDA SEERY:Raining Notes(Ireland)
24)AMY HELM:This Two Small Light(USA)
25)AMY RAY:Holler(USA)
26)EILIS NEEDHAM:Fuinniuil(Ireland)
27)AALLOTAR:Ameriikan Laulu(Finland)
28)BLODAU GWYLLTION:Llifo Fel Oed(Wales)
29)HAZEL DICKENS & ALICE GERRARD
　:Sing Me Back Home: The DC Tapes, 1965-1969(USA)
30)MOHEAD:Son Of The South(USA)

[CD/ＵＳＡ]







(J.P. Harris)　(Ad Vanderveen)　(Bottle Rockets)

*J.P. HARRIS:Sometimes Dogs Bark At Nothing　A
（アラバマ出身のSSWの本作は「これ、70年代のSSWアルバムじゃないの？」と耳を疑ってしまう70年代のレッドネック・ロックやプログレッシヴ・カントリーのSSW風のヴォーカルとビシッとバッチリなやや南部風カントリー・ロックで、嘘みたいに出来過ぎ。

大工だという J.P.の唄は若かりし頃の Steve Goodman や Jerry Jeff Walker や Guy Clark などの唄を思い起こさせ、エレキ＆アコースティック･ギター、スティール＆スライドギター、ドラムス、フィドル、ピアノなどによるバンド･サウンドも、あの時代の音を活き活きと体現していて、まるであの時代の SSW の名盤が今に蘇ったかのような SSW ファン歓喜のアルバム。2018 作。Free Dirt)

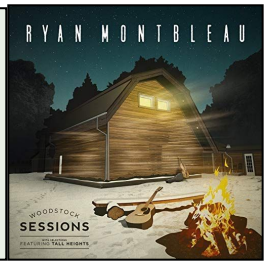
*AD VANDERVEEN:I Was Hank Williams A

(便宜上ここで。かつて Iain Matthews、Eliza Gilkyson とトリオで"More Than A Song"を発表したことのあるカナダ系ドイツ人 SSW の Ad Vanderveen の新作は、フォーク･シンガー/SSW としての原点に帰るうたうことに真っ直ぐなアルバム。ギターの弾き語りのみならず、適度にロック的な音作りがなされたナムバーやホーンや女性ハーモニー･ヴォーカルが入るナムバーもあるが、正にいぶし銀の唄の味わいは、SSW アルバムとして円熟度を極めていて、アルバムを通して渋く感動的。酸いも甘いも知った古老シンガーが、これまでの人生を振り返りながら、リラックスし、じっくりとうたった感じだ。名盤誕生。Blue Rose)

*BOTTLE ROCKETS:Bit Logic A

(Bottle Rockets は～メムバーは Brian Henneman{ヴォーカル、ｴﾚｷｷﾞﾀｰ}, John Horton{ｴﾚｷ&ｽﾗｲﾄﾞｷﾞﾀｰ}, Mark Ortmann{ﾄﾞﾗﾑｽ}, Keith Voegele{ﾍﾞｰｽ、ヴォーカル}の～セントルイスの四人組ルーツロック･バンド。リード･ヴォーカルの Brian のヴォーカルは昔聴いたことのあるような 70 年代の SSW 風の土臭い味わいのヴォーカルで、バンドが叩き出すロックは、The Band もどきもあるが、Eggs Over Easy っぽい余裕と味のあるロックで、昔馴染みのバンドと出逢ったような懐かしい感じの心身に美味しいロック。いるところにはいるんだね、人間くさいロック･バンドが。2018 作。Blue Rose)





(Brother Brothers) (Ryan Monbleau)

*THE BROTHER BROTHERS:Some People I Know A

(双子の兄弟の Adam & David Moss のデュオ。しばらくこんな感じ～Everly Brothers や Aztec Two-Step のようなほんわかな男性デュオ～の男性二人組のアルバムはなかったような。ジャケットの「飲んだくれ兄弟」のイメージとは真逆の美しいハーモニーとソロによる夢見る純情青春ソングのような初々しい唄が並ぶ。David が爪弾くアコースティック･ギターはピッキングが鮮やかで初々しく、Adam が奏でるフィドルは愁いがある。おやじデュオながら胸キュン。2018 作。Compass)

*RYAN MONTBLEAU:Woodstock Sessions A

(マサチューセッツ出身の SSW の R.Nontbleau のウッドストックにある"Applehead"スタジオでのギター弾き語りライヴ。2002 年にデビュー･アルバムを発表していて、本作は 13 作目らしい。初めて聴く彼の唄はひたすら純粋で誠実。ファンを前にして行ったギターの弾き語り{＋チェロが入る曲数曲}ライヴが功を奏してか、ギターの美しい音色を伴った味のある節回しの唄は、どの唄もぬくもり感があって、じわりじわりと心に響く。アルバム･タイトルに惹かれて仕入れて聴いたら、予想した音楽とは真逆な？心洗われるような SSW アルバムらしい SSW アルバムに出遭えて、心和み＆心笑顔。昔の Bill Morrissey クラス。2018 作。
Woodstock Sessions)

*MOHEAD:Son Of The South A

(メンフィス生まれの南部ロッカー＆SSW＆ギタリストによる、"Son Of The South"というアルバム･タイトルに偽りなしの嘘みたいに南部ロックな SSW アルバム。自身が弾くエレキ＆スライドギターにドラムス、ベース、オルガン、フィドル、女性バックグラウンド･ヴォーカルによる体に美味しい南部ロック･サウンド、そして本作の主役の Mohead の Van Morrison や Greg Allman をホーフツさせるヴォーカルは、南部ロックの旨みをばっちり体現していて、その本醸造な旨みに耳を疑うほど。Mohead のロックは、どっしりとしている分、その旨みが濃い。ネットで調べたら、Bob Dylan や Little Feat や Ray Wylie Hubbard などと共演したり、同じステージに立ったことがあるとか。2018 作。Rogue/Continental)

*KENNEDYS:Safe Until Tomorrow A

(Pete & Maura Kennedy の夫婦デュオ"Kennedys"の新作。11 曲中９曲が Maura 又は Maura & Pete の作曲による本作は、Roger McGuinn や Byrds の西海岸ロックの美味しいとこ取りしたような Kennedys らしいいつもの常若なロック。いつも夢の中にいるような彼らの輝きを失わない西海岸ロックは、いつもまぶしい。2018 作。
The Kennedys)

*CHUCK PYLE:Camel Rock A

(コロラドを拠点に活動をしていた SSW の Chuck Pyle{2015 年没}の 1995 年の Gordon Burt のフィドルをお伴にしたギター弾き語りライヴ。Chuck Pyle の唄は Jerry Jeff Walker や John Denver や Gary P.Nunn や Nitty Gritty Dirt Band などが取り上げているが、久しぶりに聴く Chuck の唄に心和みっぱなし。コロラドの大自然の生活の中から生まれた心優しい唄が次から次。ラストは J.J.Walker が"Ridin' High"{1975 作}に収録した Chuck 作"Jaded Lover"{7 分 33 秒}で幕。全 13 曲心ほっこり。。昔の親友に出逢った気分。在庫期間が長い CD ですので、検盤をしてお送りします。1995 年。
Bee'N'Flower Music)

*THE V-ROYS:All About Town A

(ナッシュビルの四人組ルーツロック･バンド"The V-Roys"の 1998 年リリースの二枚目。Twangtrust{Steve Earle & Ray Kennedy}がプロデュースを手がけた本作は、ブルーグラス、カントリー、フォーク、ロック、パンク等を凝縮して、ビートルズ風に仕上げた

風の音楽的にメチャ魅力的なアルバム。在庫期間が長い CD ですので、検盤をしてお送りします。在庫数僅か。1998 年。E-Squared)

*ARTHUR DODGE AND THE HORSEFEATHERS:Nervous Habit　　A

(初期 Crazy Horse や初期 Byrds の影響を受けたという Arthur Dodge と彼のバンドによる 2000 年のアルバム。Randy Newman を思い起こさせる Arthur Dodge のしたたかさを秘めたしゃがれ声と彼のバンドのやや粗めでどっしり感のあるルーツロックは、百戦錬磨の手応えと味わいがあってメチャ最高。一度だけカタログに載せて、その後、載せ忘れていた CD。2000 作。Blue Rose)

*ERIC ANDERSEN:Mingle With The Universe　　A

(副題"The Worlds Of Lord Byron"イギリスの詩人バイロン男爵ジョージ・ゴードン・バイロン{1788 年-1824}の詩に Eric Andersen が曲をつけてうたったもの。75 歳の年齢に相応しい晩秋の趣のある声で昔と変わらないアンダースン節。全体的に優しく穏やかな唄が多く、すっと彼の唄の世界へと引き込まれる。一曲ウードをフィーチャーしたアラブ風のインスト曲もある。w.Inge Andersen{奥様},Michele Gazich,Giorgio Curcetti,Cheryl Prashker,Paul Zoontjens。2017 作。独 Meyer)

[CD/ＵＳＡ{female}]



(Alela Diane)　　(Sugarcane Jane)　　(Fiona Boyes)

*ALELA DIANE:The Pirate's Gospel(Deluxe Edition)　¥2390

(Alela Diane の 2006 年のデビュー作に未発表音源曲 10 曲を加えて、新たに二枚組で発売されたデラックス版。Alena は音楽家の両親のもと、カリフォルニアの深い森の家で両親からフォークソングを習ったという。本作は過去と未来や人生、死、誕生などについて思索した自作の唄を父親のスタジオで録音したもので、唄もギターの伴奏もいたって素朴ながら、唄の味わいはどのフォーク系シンガーよりも深いと思えるほど深い。個人的な印象だが、Karen Dalton が淡々とギターを爪弾きうたった感じで、感情を押し殺したような、投げやりにも感じられる彼女の唄は、心に深く響く。名盤中の名盤。2006/2018 作)

*SUGARCANE JANE:Suthernstate Of Mind　　A

(Sugarcane Jane はアラバマの Anthony & Savana Lee Crawford の夫婦デュオ。ご主人の Anthony は Neil Young や Steve Winwood や Vince Gill などと活動していて、その後 Savana と出逢ってからデュオで活動を始めたという。"Grievous Angel"時代の Gram Parsons & Emmylou Harris 風デュエットで幕を開ける本作は、ホームメイドな 70 年代の西海岸カントリー・ロック風美味サウンドと共にぞっ

こん。Anthony の声自体に Roger McGuinn や Gram Parsons のような人を惹き付ける魅力があって、ギターの弾き語り調もカントリー・ロック調も、どの唄も懐かしいような後ろ髪引かれる感じ。Anthony が爪弾くギターは 70 年代風米国フォーク～西海岸ロックの味わいが感じられてゾクゾク。ご夫婦共に青春時代と変わらず今も夢の中!?2018 作。Arena)

*FIONA BOYES:Voodoo In The Shadows A

(便宜上ここで。オーストラリア人 SSW でブルース・ギタリストの Fiona Boyes の新作。前作"Professin' The Blues""は Blues Blast Magazine の 2017 年の"Acoustic Album of the Year"賞を受賞。オーストラリア人二人～Tim Neal{ﾊﾓﾝﾄﾞB3,ﾋﾟｱﾉ、ﾍﾞｰｽ、ｻｯｸｽ}と Mark Gruden{ﾄﾞﾗﾑｽ}～にニューオーリンズ屈指のハーモニカ＆アコ奏者の Johnny Sansone がバックアップした本作は、バック・ミュージシャンによる味のあるブルース・サウンドを含めて、ブルース色濃厚で、ブルースの心髄的ギターをかき鳴らしうたう Fiona のヴォーカルも徹頭徹尾ブルースがかっていて圧巻。彼女完全にブルースの神様が乗り移っている。凄い。2018 作。Reference)

*COURTNEY HARTMAN & TAYLOR ASHTON
:Been On Your Side A

(ナッシュビルの女性ブルーグラス・グループの"Della Mae"の SSW でギター奏者の Courtney Hartman とカナダ人 SSW でギター＆バンジョー奏者の二人組による本作は、悲哀感や寂寥感のようなものがそこはかとなく漂う滅多にお耳かかれない絶品の SSW アルバム。サウンドは渋く古びだ感じを醸し出してはいるものの、音楽センスは絶妙で、アメリカン・ルーツ系の男女のヴォーカル・デュオ・アルバムとして、独創性と完熟度が高い。二人のリラックスしつつ、阿吽のヴォーカル・ハーモニーが何とも言えず素晴らしく、心惹かれて仕方がない。二人のギターとバンジョーも細心の演奏が光っている。SSW ベスト・アルバム候補。2018 作。Free Dirt)

*MARIA MULDAUR:Don't You Feel My Leg B

(耳と目を疑う発売時 75 歳の Maria の新作だ。1973 年リリースの Maria の一枚目のソロ・アルバム制作時に Dr.John が推薦した曲が Blue Lu Baker というニューオーリンズの女性ブルース・シンガーの曲。本作は Blue Lu Baker や彼女の夫の Danny が作詞作曲した曲を中心にニューオーリンズで収録されたオールド・スタイルのニューオーリンズのブルース色濃厚なアルバムで、Dr.John こそいないが、"Maria with Dr.John"スタイルを基本に Maria は若い頃と同じようにノスタルジックな妖艶さを発散していて、凄い。2018 作。The Last Music)

*MISSY RAINES:Royal Traveller A

(ベース奏者として"International Bluegrass Music Awards"という賞を７回も受賞しているという Missy Raines は SSW としても凄く魅力的で、主に女性のゲスト・シンガーとの爽やかなデュエットやハーモニーは、心軽やかな気分になる。バックの音楽はオシャレなというかハイセンスなブルーグラスで、古っぽい土

臭さも感じさせつつ、爽やかで勢いがあって、滅茶苦茶清々しい。プロデューサーの Alison Brown の手腕も見事で、SSW アルバムとして唄も音楽も鮮度が高い。嘘みたいに気持ちのよいブルーグラス系女性 SSW アルバムだ。w.Tim O' Brien,Claire Lynch,Amy Ray,Sierra Hull,Stuart Duncan,Dan Dugmore,Matt Flinner,Todd Phillips,Kenny Malone,Molly Tuttle,etc. 2018 作。Compass)

*AMY RAY:Holler A

(Indigo Girls の片割れで SSW の Amy Ray のソロ。自身「伝統的カントリー、南部ロック、マウンテン・ミュージック、ゴスペル、ブルーグラスにインスパイヤーされたアルバム」と言っているが、その言葉通り、アメリカン・ルーツミュージックとして、そのルーツの味わいをしっかりとキープしつつ、上記の音楽性の幅で、人生の悲喜こもごもや社会の不条理をゴスペルをうたうように魂を込めて唄にしてうたう。Compass レコードの力か、Compass の共同創設者 Alison Brown 他バックアップするミュージシャンの演奏が幅広く奥深く充実していて、唄とともにサウンドも味わいが深い。感動作。2018 作。Compass)

*AMY HELM:This Two Small Light B

(元 Ollabelle のヴォーカルで、Levon Helm・Libby Titus 夫妻の娘 Amy の三年振りの新作でソロ二枚目。プロデューサーの Joe Henry は、Joe 自身の豊かな音楽経験を通じて得たひらめきを発揮して、両親譲りの Amy の豊かな歌唱力をたっぷりと引き出すゴスペル風アメリカン・ルーツロック志向の SSW アルバムを完成させている。Allen Toussaint の"Freedom For The Stallion"や Rod Stewart の"Every Picture Tells A Story"収録の"Mandolin Wind"や Levon And The Hawks 時代の曲で Robbie Robertson 作の"The Stones I Throw"等原曲の味わいをほのかに残しながら、Amy の唄は根を張った大木のように揺るぎがない。2018 作。Yep Roc)

*OLLABELLE:Riverside Battle Songs A

(Produced by Larry Campbell with Ollabelle。2006 作。Verve Forecast)

*MARTHA FIELDS:Dancing Shadows A

(南部魂というか、ヴォーカルにもフォーク、ブルース、カントリー、ブルーグラスごった煮のロックにも南部フィーリングがみなぎる Martha Field の新作。Martha と彼女のバンドが体現したロックは、オール・アメリカンな音楽がそこかしこに感じられて、ダウン・トゥ・アースで、何よりポジティヴ。彼女のヴォーカルの基礎的な部分で、アパラチア民謡や古いカントリーの匂いが感じられるのも、彼女のヴォーカルの大きな魅力になっている。2018 作。Martha Fields)

*SERA CAHOONE:The Flora String Sessions a

(女性 SSW の Sera Cahoone の 100%新鮮野菜な美味しいアルバム。初めて知った SSW だが、ギターやヴァイオリンやチェロの気持ちの良いアコースティック・サウンドの流れに乗って聞こえてくる

Sera の耳元でささやくような唄の何と心地よいこと！Sera の唄はどの唄もリラックスしていて、自然体で、その響きは何か懐かしさを覚える響き。たった７曲のみの唄だが、むしろその少なさが逆に一曲一曲の味わいが深く感じられるような気がする。SSW は誰もがホロリの逸品。2018 作。Galaxy Dog Music）

［CD/ＣＡＮＡＤＡ］







（Hidden Agenda&Susanna）　（Kendal Carson）　（Kaia Kater）

*HIDDEN AGENDA DELUXE & OH SUSANNA:Angels In The Snow　A
（ドイツのヴェテラン･アメリカン･ロック･バンドの Hidden Agenda Deluxe がカナダの女性 SSW の Oh Susanna をメムバーに招いて制作したクリスマス･アルバム。The Band の"Island"収録の"Xmas Must Be Tonight"で The Band 風いぶし銀ロックで幕開けする本作は、いぶし銀アメリカン･ロックから SSW 風そして Oh Susanna のヴォーカルをフィーチャーした女性 SSW 風と聴かせ所色々で、しかも一曲一曲の完成度が高く、味わいが深い。彼らの熟達したロックも聴き惚れるが、バンドのヴォーカルを担う BJ Baartmans と Eric Devries は SSW としても凄い魅力で、SSW 風仕立てのクリスマス･ソングも聴き惚れてしまう。それに Oh Susanna が花を添えてる感じだ。本作でドイツにメチャかっこいいアメリカン･ロック･バンドがいることを初めて知った。本醸造アメリカン･ロック･ファンがクリスマスに聴くアルバムは本作に決定！2018 作。 Continental）

*KENDAL CARSON:The Lost Tapes Of Suzanna Hamilton & The Calgary Sessions　A
（カナダのケルティック･ロック･バンドのシンガーでフィドラーの Kandal 嬢の新作は、すっかり 1970 年代 SSW 風の二枚組。"The Lost Tapes Of Suzanna Hamilton"と名付けられたディスク１は Kandal と Chip Taylor が映画用のサントラとして制作し、お蔵入りになっていた音源からの 10 曲で、Chip Taylor, John Platania, Greg Leisz, Tony Mercadante, Tony Leone などがバックを務め、"The Calgary Sessions"と名付けられたディスク２は Chip Taylor とカナダのミュージシャン三名がバックを務めたボーナス CD で７曲収録。ディスク１は 70 年代のカントリー･シンガー役の Suzanna Hamilton がうたう場面の音源で、70 年代の Chip Taylor の音楽に通じる滅茶苦茶美味しいサウンドと唄のムードで、Kendal は 70 年代の女性 SSW 風にしっとりとうたう。すべてが美味しい。Chip Taylor は Kendal の唄にそっと寄り添いデュエットする。2018 作。Train Wreck）

*KAIA KATER:Grenades A
(カナダのケベック生まれでカナダ人とカリブ海のグレナダ人の血を受け継ぐ女性 SSW の Kaia Kater の新作。アパラチア民謡を学んだ彼女の音楽はアパラチア音楽、ケベック音楽、カリブ音楽の影響を受けたモザイク模様のオリジナルな異種交配フォーク。アパラチアン・スタイルのバンジョー名手でもある Kaia のバンジョーは、モザイク模様のフォーク・サウンドの中で、不思議な音色を発てている。「彼女の本領であるアメリカーナに加え、自身のアイデンティティであるカリブ/ケベックの影響が音楽面、歌詞共に色濃く反映された内容となっている」との CD 解説。20 ページのブックレット付。2018 作。Smithsonian Folkways)
*BONNIE DOBSON:Take Me For A Walk In The Morning Dew a
(Bonnie Dobson の 2014 作。録音は英国のロンドン。Her Boys と名付けたグループ{B.J.Cole もﾒﾑﾊﾞｰ}を伴って制作された本作は、衰えを知らぬ歌声と決して懐古趣味的ではない今の Bonnie の音楽が瑞々しく表出されている。2014 作。Hornbeam)
*IAN TAMBLYN:Side By Each A
(海の生き物に心を寄せ、旅の思い出を回想する Ian の心の唄は、本作において、一段と穏やか。w.Rebecca Campbell{彼女のほわっとしたﾊｰﾓﾆｰ・ｳﾞｫｰｶﾙは Ian の音楽に欠かせなくなっている},Fred Guignion,Pat Maher。2013 作。North Track)

[CD/UK, IRELAND]





(Emma Marshall) (Luka Bloom)

*EMMA MARSHALL:The Building Light C
(Emma Marshall は英国デヴォンの女性 SSW。彼女の心が晴れないような、何か寂しさから抜けきれないような暗たんとしたシンギングと Emma が爪弾くアコースティック・ギターを中心に据えたシンプルながら 70 年代の不思議ブリティッシュ・フォーク風のサウンドは、ある種アートの域の SSW&ブリティッシュ・フォーク・アルバム。自作の唄の中に"True Lovers Farewell"や"May Morning Dew"や"Rosemary Lane"などのトラッドの名曲をさりげなく入れているという工夫は、本作にブリティッシュ・フォークの気品を添えていて、ナチュラルに英国情緒の味わいを深めている。この暗たんとした Emma 流ブリティッシュ・フォークの美しさは言葉では言い尽くせない。ラップ包装なし{開封}CD。2018 作。Cotton Mill)
*LUKA BLOOM:Sometimes I Fly… C
(副題"Live In Bremen"。2001 年ドイツの Radio Bremen 収録ライ

ヴ。1974 年から始まったドイツの音楽ファンとの特別な関係が綴られたライナーノーツにとても静かにしている観客について「たぶん楽しんでないんじゃないか」と危惧し、「そういう聴き方はドイツ流で、それは自分の唄にバッチリで、それを知ってからドイツでリラックスし、うたうのが楽しくなった」と述懐している。ドイツの音楽ファンと日本の音楽ファンが似ていることはともかく、本作でギターの弾き語りでうたう Luka の唄の生き生きさは、もの凄い。リラックスしていればこそか、唄やギターへの感情移入がスムーズで、唄にスタジオ録音の唄以上の表情が生まれていて、静寂の中でそれぞれの唄に命が宿っている。観客の拍手もあたたかい。Luka の真骨頂的名盤。全 14 曲。2018 作。MIG)

*LISA KNAPP:Till April Is Dead - A Garland of May B

(「春眠暁を覚えず」というか、「春」の訪れを夢見心地のまま感性を優しく研ぎ澄ませて、柔らかな感性で伝統歌の数々を Lisa がシンギングした春いっぱいなトラッドだが、ブリティッシュ・フォークっぽいアルバム。川のせせらぎの音や鳥の鳴き声や鳩時計の時報を知らせる音や奏法の枠を超えたどちらかと言えばノイジーで愉快な各種楽器の音などが鳴り響く中、Lisa は春の夢の中で遊ぶ少女のように春向けの伝統歌を口ずさむ。奇跡の一枚。全 12 曲。2017 作。Ear To The Ground)

*LISA KNAPP:Wild And Undaunted B

(一枚目。2006 年。Ear To The Ground)

*JOHNNY COPPIN:All On A Winter's Night A

(デビュー当初から愁いのあるブリティッシュ・フォークで魅了してきた Johnny Coppin の 2017 年作。Johnny Coppin の冬向きの唄の数々は、どの唄も誠実で初々しくかつ愁いがあって、心身の芯から癒される 120%J.Coppin な純良ブリティッシュ・フォーク。制作時で 72 歳になる彼のハイトーンのヴォーカルと清々しい英国フォーク・サウンドは、まるで今が旬のように愁いを保ちながら輝いている。彼のベストの出来映え。2017 作。Red Sky)

*ALLAN TAYLOR:Behind The Mix B

(2000 年作"Colour To The Moon"の限定ボックス版{廃盤}のボーナス CD"Behind The Mix"の再発盤。前半の数曲が Allan Taylor のソロで、残りが Allan Taylor&Derroll Adams のデュオ曲という構成。"Colour To The Moon"収録直前に亡くなった Derroll Adams {1925-2000}の追悼盤の印象。気心を知った二人の息の合った演唱に心和む。全 15 トラック。P22 のブックレットでは思い出の写真も拝める。2000 年/2017 作。Stockfisch)

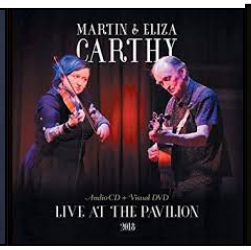
[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

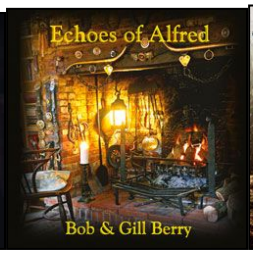


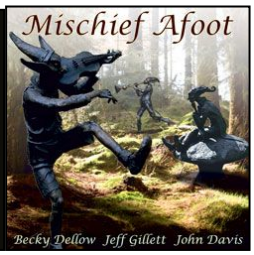
(Linda Thompson)

*LINDA THOMPSON PRESENTS
:My Mother Doesn't Know I'm On The Stage B
(本作は 2005 年にロンドンのリリック劇場の舞台で収録されたライヴ録音盤。Linda Thompson 名義のアルバムだが、Linda と Teddy Thompson と以外の Martha Wainwright, Cara Dillon, Colin Firth, Bob Davenport, Justin VivianBond, John Foreman, Roy Food, James Walbourne などのシンガーがうたうのは一曲のみ。曲ごとにシンガーもミュージシャンも入れ替わるが、古き良き時代の英国のミュージック・ホールのショーのノスタルジックな雰囲気が良く出ていて、なぜかクリスマスな？ほんわか幸せ気分になる。そんな中、Sam Lakeman のピアノの伴奏で"The Lark In The Clear Air"を清々しくシンギングする 13 年前の Cara の歌声にドキッ。二人の写真も若い！ラストは"Show Me The Way To Go Home"をみんなでうたって幕。13 年の時を経て届いた Linda からの素敵なクリスマス・プレゼント。2018 作。Omnivore)
*RICHARD THOMPSON:13 Rivers B
(現役バリバリの R. Thompson の新作。何かが乗り移っているとしか思えないほど、感動の深さが深く孤高。2018 作。Proper)
*DAVID HUGHES & CHRIS LESLIE:Acoustic Christmas ¥1400
(英国の SSW の D. Huges と Fairport のシンガーの C. Leslie の夢の共演盤。ギターとマンドリンの伴奏による耳と心に新鮮なクリスマス・ソング集。全 6 曲の 24 分。簡易紙ジャケット仕様。1998 作。Folk Corporation)

[CD/ＥＮＧＬＡＮＤ]





(Forrow Collective) (Martin & Eliza) (Bob & Gill) (Mischief Afoot)

*FURROW COLLECTIVE:Fathoms C
(Rachel Newton{ヴォーカル、ハープ、フィドル}, Lucy Farrell{ヴォーカル、ヴィオラ}, Emily Portman{ヴォーカル、コンサーティーナ、バンジョー}, Alasdair Roberts{ヴォーカル、ギター}のイングランドとスコットランドを代表するトラッド・シンガー達による Forrow Collective の二年振り

の新作。本作も全員伝承歌をうたい継ぐフォーク･シンガーに徹し、創作の羅針盤を過去に向け、英国やスコットランドなどの伝承歌を素朴にシンギングし、ハモる。各シンガーによる音楽は時代の流れとは逆方向の素朴で渋いサウンド。このすべてにおいて古色蒼然とした味わいは何よりも代えがたいもの。真に品の良い極上のトラッド。彼らは 2017 年の BBC Radio 2 Folk Awards の 'Best Group' 賞受賞。選考者の皆さん、耳が肥えてますね。全 13 曲。2018 作。Hudson)

*MARTIN & ELIZA CARTHY:Live At The Pavilion ¥2690

(Martin & Eliza 父娘による 2018 年２月のライヴで CD と DVD のセット。見た目、益々貫禄十分な Eliza と歳相応に老けた Martin。Martin のシンギングもギターもさすがに衰えが見られるが、それでもかくしゃくとしたシンギングは、正にいぶし銀の味わいがにじみ出ていて、味わい深いし、今まで味わえなかった味わいが味わえる。共演する Eliza も Martin のペースの合わせて、フィドルを奏で、豊かな声でシンギングし、ハモる。直に見て唄を聴く観客の拍手が温かい。会場はデカイがまるでホームコンサートのようなぬくもり感のあるライヴだ。全 12 曲。Eliza の貫禄は、CD の DVD 版{思い出話などおしゃべりや音合わせも入っています}でご確認下さい。2018 作。Under The Bed)

*BOB AND GILL BERRY:Echoes Of Alfredy B

(「暖炉のそばでうたって楽しむ」イメージで制作されたという Bob & Gill 夫妻の新作は、オックスフォードシャーのフォークソング収集家の Alfred Williams{1877-1930}が収集した民謡を中心に演唱したアルバムで、二人のシンギングといい、二人やゲストによるモリス･ダンス風音楽、それに土臭い英国トラッド･サウンドといい、イングランドのオーセンティックなトラッドの味わいと楽しさが自然体で溢れたもの。本作から夫妻のイングランド民謡を愛し、慈しむ心がやんわりと伝わってくる。終始「暖炉」の温かさ。英国トラッドの豊かさがわかる全 16 曲。2018 作。WildGoose)

*MISCHIEF AFOOT:Mischief Afoot B

(コッツウォルズを拠点に活動する Mischief Afoot は、Becky Dellow{ﾌｨﾄﾞﾙ},John Davis{ﾘｺｰﾀﾞｰ、ﾊﾞｳﾛﾝ},Jeff Gillett{ｳﾞｫｰｶﾙ、ｷﾞﾀｰ、ﾏﾝﾄﾞｰﾗ、ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ、}のトリオ。選曲はイングランド、アイルランド、スコットランドのトラッドやその関係のミュージシャンの曲。彼らの手にかかれば、アイリッシュであろうとイングリッシュであろうと、彼ら流の魅惑の「トラッド」に生まれ変わる。その感覚というか意識は 70 年代ブリティッシュ･フォーク･バンドの多くがそうであったようにトラッドの祝祭気分やミステリアスさやワビサビに魅力を発見し、自分達流に演唱したもの。ジャケ写のように悪がしっこい妖精になって？楽しむトラッドが楽しい。全 14 曲。2018 作。WildGoose)

*BOB FOX & JOHN TAMS:A Garland For Joey B

(副題"The War Horse Songbook"。「ウォー・ホース～戦火の馬～」は、1982 年に出版されたマイケル・モーパーゴによる児童小説を舞台化した演劇で、スティーヴン･スピルバーグ監督により映画

化もされているが、本作は演劇のために John Tams がトラッドのスタイルで作詞作曲した唄の中からハイライトの唄を Bob Fox がギターの弾き語りでうたったアルバム。驚くのは、Bob Fox の 60 歳半ばを過ぎてもなお、70～80 年代に Stu Luckley とのデュオで味わわせた英国トラッド調に毅然として、円やかにコブシの利いたシンギングと、ドキッとするほど、70 年代英国トラッドの空気に充ちたきららかなギターの音色を発していること。Bob Fox 自身、本人が最も輝けるスタイルのシンギング･スタイルとギターとで、じっくりと演唱することに意識を傾けたかのような熟成感が感じられ、味わい深い。全 12 曲。2017 作。Fledg'ling)

*DAMIEN BARBER & MIKE WILSON:Under The Influence B

(販売した記憶のない CD が棚の隅っこから出てきて、聴いてみたら、おっそろしく見事なイングランドのトラッド･シンギング･アルバムで驚いてしまった。LP 盤風の装丁や、Peter Bellamy や Dick Gaughan や Martin Carthy や Harry Cox や Iwan MacColl 等の LP ジャケットや写真を使ったジャケットから Damien{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ｷﾞﾀｰ}と Mike{ｳﾞｫｰｶﾙ}の二人が目指す音楽が推し量られるが、二人のシンギングもギターもコンサーティーナも信じられないほど「70 年代トラッド」していてファンは恍惚必至。気分は正にお宝発掘。2009 作。Sources)

*ANDREW CRONSHAW:Ochre C

(Andrew Cronshaw{ﾂｨﾀｰ､各種笛他},Natacha Atlas{ｳﾞｫｰｶﾙ}､Llio Rhyddrerch{ﾄﾘﾌﾟﾙ･ﾊｰﾌﾟ},Abdullah Chhadeh{ｶｰﾇｰﾝ､ｳｰﾄﾞ}, Bernard O'Neill{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ},Matthaios Tsahourides{ﾘﾗ}による無国籍な、日本から見れば西域の悠久音楽風。雅楽のような響きも。2004 作。Cloud Valley)

*MADDY PRIOR WITH HANNAH JAMES & GILES LEWIN :Shortwinger B

(Steeleye Span のアコースティック版の趣の Maddy Prior{ｳﾞｫｰｶﾙ} with Hannah James{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｱｺ} & Giles Lewin{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｳﾞｧｲｵﾘﾝ､ｳﾞｨｵﾗ､ﾊﾞｸﾞﾊﾟ ｲﾌﾟ他}のトリオによる待望の二作目。Maddy Prior 長年のテーマである民俗神話を題材にしたアルバムだが、まるで Tim Hart & Maddy Prior 時代に回帰するような英国フォーク＆トラッド志向の男女のシンギングと Giles Lewin と Hannah James が紡ぎ出す英国風抒情は、Maddy 自身のルーツ回帰的な、何ものにも代えがたい初々しい英国フォーク＆トラッドの味わいだ。英国フォーク･ファンは初心回帰の心地よさ。若草の輝き。2017 作。Park)

*KATE RUSBY:Angels And Men C

(Kate のクリスマス･アルバム。Kate 自身のシンギングはいつものシンギングだが、フリューゲルホーンやコルネットなどの吹奏楽器を加え、かつフォーク、ロック、ジャズなど様々な音色で彩る Damien のギターとバンジョーの演奏は、Kate 本来の魅力に加えて、Kate 独自のトラッド音楽の世界の幅を独自の手法{フォーク･ロック風ではなく、ブラス･モンキーなどの伝統的ブラス･サウンドと多様な音楽性をミックスさせる手法}で広げていて、魅

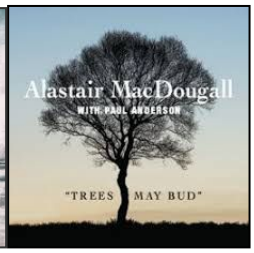
力的。全 13 曲。2017 作。Pure)

［CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ］









(Hananh Rarity)　(Jamie & Christian)　(Trail West)　(Alastair MacDougall)

*HANNAH RARITY:Neath The Gloaming Star　C

(2018 年の"BBC Radio Scotland Young Traditional Musician"賞受賞の若き歌姫のデビュー作。実際、通常のフォーク/トラッド・シンガーとは一線を画した彼女の並外れたクリスタル・ヴォイスを聴けば、誰もが耳を奪われるだろう。歌唱力自体が並外れていて、ジャンルを超えて多くのリスナーを魅了する器を持っていて、本作はスコットランド人に愛されている伝承歌や SSW の唄に自作曲を心を込めてうたっている。そんな唄を彩る音楽は、スコティッシュ・トラッド色は薄く、むしろ Hannah の美しいシンギングを引き立たせるハイブリッドで型にはまらないフォーク・サウンドで、Hannah のシンギングは各曲個々の輝きで美しい。ラストは Phil Cunningham のワビサビのアコの伴奏で Davy Steele 作の "Rose O' Summerlee"をうたって静かに幕。全 11 曲。2018 作。Hannah Rarity)

*JAMIE MacDONALD & CHRISTIAN GAMAUF:The Pipe Slang　B

(このスコティッシュ・パイパーとスコティッシュ・フィドルのコンビのアルバムで、これほど質の高いスコティッシュ・トラッド・アルバムは聴いたことがない。二人はスコットランドのウイスト島で知り合い、アストゥーリアスなどのケルトの地を旅し、演奏を行ってきたという。本作はヘブリディーズのトラッドを中心にした選曲で、旅で得た音楽体験がむしろスコットランド音楽への求心力が強く働いたかのような質の高いスコティッシュ・ミュージックを高らかに演奏していて、心奮わされる。しかもそのスピリットの高い演奏に細やかな表現力による泣きの演奏や疾走感ある演奏が伴っているのだから、恐れ入る。加えて、Jamie の二卵性双生児の妹の Anna が自身のクラルサッハの伴奏で若草の香りのするシンギング{ゲール語)で魅了もする。"Scots Trad Awards 2018"の"Album Of The Year"賞候補。2018 作。JMCG01)

*TRAIL WEST:From The Sea To The City　B

(四太郎から六太郎編成になったグラスゴーのフォーク・ロック・バンドの"Trail West"の新作で三枚目。荒武者のような Ian Smith のヴォーカルはそれだけで希少価値だが、今のご時世、スコットランドのミュージシャンの演奏力の底上げが凄く、アコ、ホイッスル、ハイランド・バグパイプやアコースティック・ギターなどによるスコティッシュ・トラッド風味満点な音楽は、潔い

ロック･サウンドと合体して、ワンランク上の独自の血湧き肉躍るおやじスコティッシュ･フォーク･ロックを体現している。一見無骨に思える音楽だが、音楽の内面は繊細で美しいセンスも宿っていて、泣けもする。2018 作。TW)

*ALASTAIR MacDOUGALL WITH PAUL ANDERSON
:Trees May Bud B

(A.MacDougall は 1990 年代はじめから活動するというヴェテラン･フォーク･シンガー＆ギター奏者が名スコティッシュ･フィドル奏者の P.Anderson と組んだ新作。全 12 曲中４曲がトラッド曲に Archie Fisher や Tom Paxton や Darrell Scott 等のフォーク系の唄をうたったもので、それぞれの唄を愛しむようにうたう彼の唄はトラッド･シンガーというよりは、心優しい SSW 風で、気分ほっこりになる。折りたたみ式のブックレットを開けば、湖畔の石に腰を下ろして楽器を持って向き合うふたりの写真。実際にライヴ録音だが、唄もギターやフィドルの音色も今生まれたかのような新鮮な空気感があって、一つ一つの唄とサウンドが体に美味しい。"Songs"という副題を付けたくなるような唄があったかく感じられるアルバムだ。2018 作。Laural)

*KARINE POLWART:Laws Of Motion B

(前作"A Pocket Of Wind Resistance"から、SSW として、またフォーク･シンガーとして新たな世界を創り始めた Karine だが、本作もその延長線上の Lau の Martin Green との共作曲を含む自作曲を中心にしたアルバム。Karine の作る唄は、イメージがどんどん広がる歌詞だが、唄として生まれた Karine の唄は、木漏れ日のようにキラキラ光るサウンドを伴って、山間の曲がりくねった川をカヌーに乗って下るように爽快で、また空を舞う鳥のように雄大。６曲目に"Matsuo's Welcome To Muckhart"という Karine が作詞し、Martin と Karine が作曲した曲が収録されている。この関東大震災で家族を亡くし、長旅をして英国に来て、英国の庭に「楽しみ」を見つけ、英国で没した日本人庭師の物語は、特に感動が深い。w.Steven Polwart{ｱｺｰｽﾃｨｯｸ･ｷﾞﾀｰ、ｴﾚｷｷﾞﾀｰ},Inge Thompson{ｱｺ、ｸﾞﾛｯｹﾝｽﾋﾟｰﾙ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ、ｼﾝｾ他}。2018 年のベスト候補。2018 作。Hudson)

*MAEVE MACKINNNON:Stri B

(スコットランド･ゲール語のトラッド･シンガーの Maeve の６年振りの新作で三枚目。Kenna Campbell や Mairi MacInnes を師とする Maeve のゲール語の伝統歌に対する姿勢は、例えば Capercaillie のカレン･マシスンのような伝統歌の現代化による蘇生。Maeve のシンギングは、自身がゲール語の響きの不思議さや歌詞に込められた様々な情感を味わうかのような余裕のあるシンギングで、何とも味わい深い上に、ゲール語の伝統歌の＋αの魅力を創り出している。絶品。w.Duncan Lyall,Ross Martin,Brian McAlpine, Martin O' Neill,Patsy Reid,Ali Hutton,Jarlath Henderson, Kathleen MacInnes,Ewen Henderson,Ian Mackinnon。歌詞英訳付。2018 作。Maeve Mackinnon)

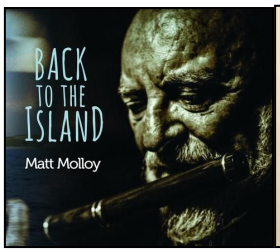
*FARA:Times From Times Fall B

(オークニー島出身の女性四人組 Fara～Jeana Leslie{ﾘｰﾄﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ},Catriona Price{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Kristan Harvey{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Jennifer Austin{ﾋﾟｱﾉ､ｳﾞｫｰｶﾙ}～の待望の新作。デビュー作も「ヤッホー！」だったが､本作も「ヤッホー！」の快進撃。複数のフィドルによるスコティッシュはともすると､ノリに任せて単調に陥りがちだが､彼女達の演奏は､音色もリズムも細やかで演奏のアイデアが豊富で､多才で多彩なスコティッシュに舌鼓を打たせる。一曲一曲にドラマがって､滅茶苦茶カッコイイ！ピアノがベースギターのような効果を出している。加えて歌心あるトラッド･シンガーならではの､清楚で心に沁みる美しいシンギング。どれもがまぶしい。今最も輝いてるバンドの一つ。2018 作。CPL-Music)

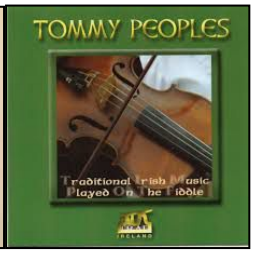
*ELLEN MITCHELL:On Yonder Lea B

(副題"Scots Songs & Ballads"。グラスゴー出身の女性トラッド･シンガーの Ellen Mitchell の 2002 年作。音楽好きの父や親族の影響で常に音楽が興味の中心だったという Ellen は､学校やキャンプなどで唄に親しみ､フォーククラブやフェスティバルとの出逢いからトラッドに傾倒していったという。Ellen の自然体のシンギングは､適度に抑揚感を保ち､素朴で温かく気高い。"Rue And Thyme","Mary Mild","Clyde's Waters"他全 14 曲。w.Jack Beck{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Tom Spiers{ﾌｨﾄﾞﾙ}。曲目解説付。2002 作。Living Tradition)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系] (NOW ARRIAL)







(Matt Molloy) (Peter Browne) (Tommy Peoples)

*MATT MOLLOY:Back To The Island ¥2390

(12/14 入荷予定。Bothy Band 創設メムバーで Chieftains の Matt Molloy の 22 年振りのソロ･アルバム。アイルランドでは既に話題沸騰。楽しみ！2018 作。Matt Molloy)

*PETER BROWNE:Sidewinder ¥2390

(12/14 入荷予定。1953 年ダブリン生まれで 6 歳から演奏をしているという超ヴェテラン･アイリッシュ･ボタン･アコーディオン奏者 Peter Browne のソロ。ネット上のオーディオ･サンプルを視聴したが､魔法の演奏にぶっ飛んでしまった。楽しみ。2018 作。Peter Browne)

*TOMMY PEOPLES
:Traditional Irish Music On The Fiddle ¥2390

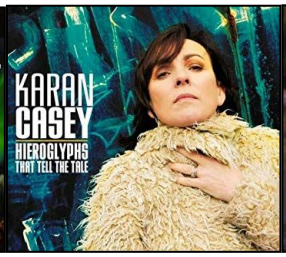
(1985 年に GTD からカセットで発売され､1993 年に CD 化されて廃盤のなっていた T.Peoples の直球アイリッシュ･フィドル･アルバム

が新たな意匠で再発された。かつて GTD 盤を相当数販売したので、お持ちの方も多いと思いますが、お持ちでない方のために仕入れました。Eugene Kelly がピアノとギターで共演。全 12 トラックの全 20 曲。GTD 盤は CDR 仕様っだたような気がしますが{見つけ出す余裕なし}、本作は CD 仕様。1985 年/2018 再発。Trad Ireland)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。









(Alec Finn)　(Karan Casey)　(Gerry O' Connor)　(Cuig)

*ALEC FINN:Blue Shamrock　B

(11/18 自宅のオランモア城で家族に看取られてこの世を去った Alec Finn の 1994 年の唯一のソロ･アルバム。"Irish Airs Played on Guitar and Bouzouki"という副題そのままのブズーキとギターによるアイリッシュのエアー曲集で、厳かで気品ある珠玉の演奏の数々は、今聴けば、全曲本当に追悼の曲のような印象で、涙を誘う。変な話だが、本作の本当の素晴らしさに今初めて気がついた気がする。共演者は Sean Ryan, Mary Bergin, Tommy Keane, Clare O"Donaghue, Dearbhaill Standun, Garvan Gallagher, Andrew Boland。本 CD は以前ツアー用のグループ"Oran"のツアーを企画したときに、メムバーの一員だった Alec Finn から仕入れたオリジナル盤。ツアーで一緒に旅をしたときの思い出が走馬燈のように蘇る。安らかに。1994 年。Alec Finn)

*KARAN CASEY:Hieroglyphs That Tell The Tale　B

(Bob Dylan 作"Hollis Brown"を米国オールドタイム＋ケルト音楽合体サウンドを配し、凛としたシンギングで圧倒して幕開けする待望の Karan Casey の新作は、ケルト風味南部志向米国女性 SSW 的な方向性と味わいを強めた心機一転の意欲作。アイリッシュを背負いつつ、フォーク･シンガー目線で米国フォーク＆SSW{Eliza Gilkyson, Janis Ian, Patti Griffin 等}の唄の世界に挑み、かつ遊び楽しむ感じで、新たな気分で「良き唄」を謳歌する清々しささえ感じられるもの。結果的に大人の女性フォーク･シンガーとして円熟味が感じられるものになっている。w. Donald Shaw{ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰでもある}, Maura O'Connell, Pauline Scanlon, Karen Matheson, Aoife O'Donovan, Michael McGoldrick, Dirk Powell, Catriona McKay, Niamh Dunn, Sean Og Graham, Niall Vallely, etc. 2018 作。Vertical)

*GERRY O'CONNOR:Last Nights Joy　B

(La Lúgh、Skylark のメムバーでフィドル名手 Gerry O'Connor の 14

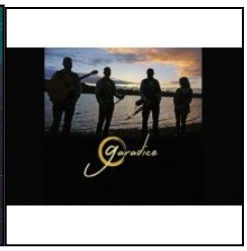
年振りの新作でソロ二枚目。Michael Coleman や John Joe Gardiner のようなスライゴーのフィドル･スタイルを独自に磨いたという彼のフィドルは、まるで魔法のフィドル。軽妙でひと工夫凝らした躍動感あるフィドルとなぜか胸キュンを覚える曲調は、リスナーの心を手玉に取る。一曲一曲セッション相手を変えながら、また曲調も変えながら、フットワーク軽く自分スタイルのアイリッシュでリスナーを有頂天にさせる。これ以上の心身の懲りをほぐしてくれるアイリッシュはない。w.Seán Óg Graham,Neil Martin,Séamie O’ Dowd,Maírtín O’ Connor,Niall Hanna,Dermot Moynagh。2018 作。Lughnasa Music)

*CUIG:The Theory Of Chaos C

(2013 年結成の五太郎の若きアイリッシュ･バンド"Cúig"の新作で二枚目。メムバーは Miceal Mullen{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ､ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ},Rónán Stewart{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ､ヴｫｰｶﾙ},Ruairí Stewart{ｷﾞﾀｰ},Eoin Murphy{ｱｺ}､Cathal Murphy{ﾄﾞﾗﾑｽ､ヴｫｰｶﾙ他}。Irish American News で"Best New Irish Band 2016"に選ばれたという彼らの音楽は、様々なタイプのアイリッシュのノリが重なり合ったチャレンジ精神旺盛なアイリッシュ･フォーク＆トラッド。同じタイプのバンドはちょっと思いつかない。かと言って異色な感じがしないのは、音楽そのものも、そして音楽する心もアイリッシュしているからだろう。音楽が若者らしく清々しい。2018 作。Cúig)







(Daithi Gormley)　(Outside Track)　(Garadice)

*DAITHI GORMLEY:Fiddling Without A Bow C

(副題"Irish Traditional Music on Button Accordion"。Joe Burke が"Master musician"と呼ぶスライゴーのボタン･アコーディオン奏者の Daithí Gormley のデビュー作。ちょっとややっこしいが、彼の父方の祖母のいとこが James Morrison で、母方の祖父が著名なメローディオン奏者だという。Catherine McHugh のピアノとの共演による Daithíの本作は、スライゴーのお年寄りも歓喜するスライゴーのトラッド色濃厚なアイリッシュ。元々アップテムポな奏法をさらにシェイプアップした Daithíのアコは、目が回るほどだから、この音楽でダンスしたら、お年寄り･･･ステップは大丈夫かしらん。彼がこれからのスライゴー･シーンを引っ張っていくかも。Daithíにアコを教えたことのある P.J. Heron は"Brilliant playing"と賛辞し「いつかフィドルとの共演盤が聴きたいね」と。2018 作。Daithí Gormley)

*THE OUTSIDE TRACK:Rise Up C

(リムリック大学の学生だった時代に出逢ったのが縁で誕生したアイルランド､スコットランド､カナダ､ノヴァスコシア出身によ

る女性四人のケルティック･バンドの Outside Track～Teresa Horgan{ヴォーカル､フルート}､Ailie Robertson{ハープ､ヴォーカル}､Fiona Black{アコ}､Mairi Rankin{フィドル､ヴォーカル}による新作で五枚目。前作参加した Cillian O'Dalaigh は不参加。彼女達の女子会のノリの汎ケルティックな音楽は本作でも絶好調。そのノリの良さは卓越した演奏力と若々しいセンスに裏打ちされていて､スカッと清々しい。リード･ヴォーカルの Teresa 嬢のシンギングは､トラッド･シンガーとして今やトップ･クラス。2018 作。The Outside Track)

*THE OUTSIDE TRACK:Light Up The Dark A
(2015 年発売の四枚目。Lorimer)

*GARADICE:Garadice ¥2390
(Eleanor Shanley{ヴォーカル},Dave Sheridan{フルート､アコ},Padraig McGovern{イリアンパイプス､ホイッスル他},John McCartin{各種ギター}のニュー･アイリッシュ･バンドの新作。Eleanor のシンギングはすっかり SSW 風だし､各ミュージシャンが紡ぎ出すアイリッシュ･サウンドは夕暮れ時のイメージの穏やかなサウンド。最先端を行くアイリッシュとは対極の､しかしこのくつろぎ感に充ちた夕焼け色のアイリッシュの何と極上なこと!Eleanor のシンギングも心通わすハーモニー優先のアイリッシュ･サウンドも美しい。ゲスト:Donal Lunny,John Joe Kelly,etc.2018 作。Garadice)

*EILIS NEEDHAM:Fuinniúil C
(Eilís Needham はスライゴー出身のアイリッシュハープ奏者で､2018 年､15 歳以下ハープ部門のオールアイルランド･チャンピオン。本作は奏者の年齢{収録時 15 歳？}を忘れて聴いた方がいい。彼女のアイリッシュに真っ直ぐなハープ演奏は､アイリッシュハープ音楽として極めて純度が高く､美しい気品があって､偏りのない選曲と一曲終わって続く曲が生える曲の並び､しかも様々なタイプの曲への感情移入が見事で､一曲一曲も､そして通して聴いてもすこぶる感動的。久しぶりに｢これぞアイリッシュハープ！｣の音楽に出逢えた。演奏に余計な欲がないことが功を奏している。Michael Rooney が推薦文を寄せている。全 14 トラックの全 19 曲。これからどう成長するか見守りたい。2018 作。Eilís Needham Music)

*HELEN DIAMOND:Helen Diamond C
(Tara & Dermy Diamond 夫妻の娘のトラッド･シンガーでフィドラーの Helen Diamond のソロ。Martin Carthy や Watersons や Copper Family 等のイングランドのトラッド･シンギングに影響を受けたという無伴奏シンギングは､1970 年代初め頃の Topic や Trailer のトラッド･シンガーの名唱をホーフツさせる素晴らしさ。2018 作。Helen Diamond)

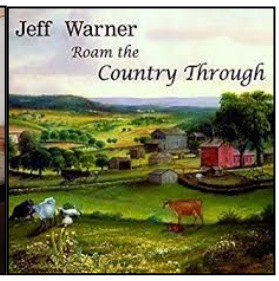
*JOSEPHINE MARSH:Josephine Marsh D
(1995 年のデビュー･ソロ。正にマジカルなアイリッシュ。w.Patrick Marsh,Jim Higgins,Catherine Custy,Eithne Ni Dhonaile,Paul O Driscoll,etc. 1995 年コピーライトのオリジナル盤。在庫僅か。Josephine Marsh)

*THE JOSEPHINE MARSH BAND:I Can Hear You Smiling　　C
(J.Marsh{ｱｺ､Declan Corey{ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ､ﾌﾞｽﾞｰｷ},Tommy Carew{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Paul O Driscoll{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ}による鉄壁のアイリッシュ。2001作。在庫僅か。Josephine Marsh)
*PHILIP DODDY:Yellow Moon On The Rise　　¥2390
(スライゴーのトラッド･シンガーのPhilip Doddyの三枚目。Philipは一度聴くと心に焼き付く独特な味わいのあるシンガーで､"As I Roved Out"や"The Mountains Of Pomeroy"や"On Raglan Road"等などトラッドの名曲を侘び寂びの節回しで､自身唄に酔い､じっくり味わうようにシンギングする。Caroline Lockeのピアノの伴奏とBrian McDonaghのマンドーラの伴奏で､聴き親しんだアイルランド民謡がまた違った味わいで味わわしてくれる。スルメ味のアイルランド民謡。2017作。Philip Doddy)
*PAT McNAMARA:The Two Sides Of Pat Mac　　¥2390
(Tulla Céili Bandのアコーディオン奏者だったというクレアのアコ奏者Pat McNamaraのソロ。おそらく1970年代か80年代の演奏だろう。前半７トラック{10曲}がアイリッシュで後半６トラックが"Continental"。こんな早い演奏でダンスできるの?!とつい思ってしまうPatの早弾きは､もの凄い。アコがギンギン即興しているのに対して､ベースギターがメトロノームのようにきっちりリズムを刻んでいるのが､何とも愉快。後半"Continental"は､打って変わってヨーロッパや米国のノスタルジック･ムードの音楽。何とザ･ピーナッツのヒットで有名な"Petie Fleur"{｢可愛い花｣}も。気分は60年代？！おそらくカセット･アルバムの2018年再発。Trad Ireland)
*MIKE MCGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog　　B
(M.MCGoldrick{ﾌﾙｰﾄ､ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ､ﾊﾞｳﾛﾝ}とDezi Dnnelly{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｨｵﾗ}の二人による新作。Mikeと Deziが二人の生まれ故郷のマンチェスターで出逢って演奏したのが二人が８歳か９歳のとき。本作は一曲一曲についての思い出が綴られていて､いわば二人の思い出曲集で､様々なアイリッシュのオンパレード。二人が心合わせて奏でるアイリッシュの響きは終始優しい。四つ折りのジャケットを開けば､中年おっさんになった二人の写真。さらに開けば､少年時代の二人の写真。全28曲/12トラック。2018作。Boxroom Music)
*THE HIGH SEAS:The High Seas　　¥2390
(Antóin Mac Gabhannの娘のCaitlín Nic Gabhann{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ﾀﾞﾝｽ}とAltanのMaireadの甥のCiarán Ó Maonaigh{ﾌｨﾄﾞﾙ}のCaitlín&Ciarán夫妻にシャンノース･シンガーでフィドル＆ブズーキ奏者のCathal Ó Curráinを加えたトリオによる新作。いやはやCaitlín&Ciaránのお二人を要にした音楽の絶品なこと！それもひけらかす演奏ではなく､各メムバーの演奏は細やかで､呼吸をするようにテムポがよく､演奏者同士が最も気持ち良く響き合える音楽を創り上げている。伝統音楽にまみれて育って､その中から美しく咲いた蓮の花のように真に芯から美しいアイリッシュ･ミュージックだ。2018作。The High Seas)

*ANTON MacGABHANN & CAITLIN Nic GABHANN
:Tobar Bhride ¥2390
(Antóin MacGabhann{ﾌｨﾄﾞﾙ}と Caitlín NicGabhann{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ﾀﾞﾝｽ}の父と娘による初アルバム。父親を通してアイリッシュに親しんでその道を進んで､父親とはまた違うアイリッシュの美しい花を咲かせている娘､その親子が親しんできた思い出の音楽を仲睦まじく演奏したアルバム。思い出の音楽には､Caitlín と Ciarán の結婚式で父 Antóin が Caitlín のために作った曲や Caitlín のコンサーティーナの先生だった Rena Traynor{1995 年没}を偲ぶ催しで､Caitlín が作曲したという曲や 1970 年代初めに Antóin が働いていたところで聴いて好きになったというコークのバンドの演奏曲や昔クレア･フィドラーの Junior Crehan から習ったという曲等々､色とりどり。w.Brian McGrath{ﾋﾟｱﾉ}。2018 作。Caitlín NicGabhann)
*SEAN GARVEY:The Bonny Bunch Of Roses C
(タムボリンの 20 年前のベストセラー。アイルランドでは"Singer's singer"と呼ばれているケリー出身のゲール語も英語もレパートリーのトラッド･シンガーでギタリストの Sean Garvey の二枚目。彼の深く落ち着きのあるシンギングは､深く感動的。アイルランドの男性トラッド･シンガーで右に出るものはいない。本作後アルバム･リリースはないようだが､現在も現役。w.Mick Kinsella, Josephine Marsh,Liam Lewis,Eoghan Og Garvey。Produced by P.J.Curtis。在庫数僅か。2003 作。Harry Stottle)
*LEN GRAHAM:Do Me Justice(1983 作。Claddagh) D
*LEN GRAHAM:Ye Lovers All(1984 作。Claddagh) A
*SKYLARK:Light And Shade(1992 作。Claddagh) A

[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ､ｱﾊﾟﾗﾁｱﾝ他}]





(Coleen Raney) (Jeff Warner)

*COLEEN RANEY:Standing In Doorways B
(米国の女性アイリッシュ系シンガーの Coleen Raney の新作は､Trever Hutchinson をプロデューサーに迎え､ダブリンで録音したもの。終始感動。本作は真っ直ぐにアイリッシュではない。ブリティッシュ･フォーク･シンガーや SSW のタイプのアルバムで､フォーク･シンガーとしての魅力が大きく開花。Liam Weldon の名曲"Dark Horse On The Wind"や Lal Waterson の名曲"Fine Horseman"あるいは Emmylou Harris の名曲"Red Dirt Girl"等の他数々のフォーク系名曲を元歌の良さを忘れ去ってしまうほど､一曲一曲が泣けるほど身にしみる。T.Hutchinson,Graham

Henderson,Bethany Waickman そして音楽パートナーの Hanz Araki による音楽がこれまたよく錬磨されていて、ある種白日夢的。よくこんなきめの細かい珠玉のフォーク･サウンドが創れたものだ。2018 作。Little Sea)

*COLLEEN RANEY･COLM MacCARTHAIGH:Cuan A

(Colleen Raney とケルト系ギター&シターン奏者の Colm MacCarthaigh の 2011 年のアルバム。Colleen の美しくたおやかなシンギングと Colm のケルティックなギターが絶妙で、ギターと女性シンガーとによる良質のブリティッシュ･フォーク～アイリッシュ･トラッドを創作している。絶品。2011 作。Cuan Music)

*JEFF WARNER:Roam The Country Through B

(フォークソング収集家でフォーク･シンガーの Anne & Frank Warner 夫妻の息子 Jeff Warner のソロ。曲目は両親から学んだ唄もあれば、両親が出逢ったシンガーから教わった唄もあれば、また古いレコーディングから覚えた唄など様々だが、Jeff のスタイルは聴き覚えた米国の古謡に忠実なスタイルで、ギターやバンジョーやコンサーティーナを奏でながらうたう唄は、そのまま米国古謡の素朴な味わいに充ちていて、うっすら英国古謡の世界へとつながる味わいの唄もある。それもその筈？Pete Coe の音楽パートナーで英国のトラッド･シンガーの Alice Jones が大半の曲でヴォーカル･ハーモニーとホイッスルなどの演奏で共演している。全 17 曲。WildGoose)

*HEDY WEST:From Granmaw And Me B

(祖母の家系が何世代にも渡る英国からの米国移民の家系だというフォーク･シンガーの故 Hedy West{1938-2005}の新作。本作は Hedy が 1954 年から 1980 年に祖母の思い出の唄や物語を記録するためにレコーディングしていた収録曲から 11 曲を選んで収録したアルバム。すっかり米国のオールドタイム～アパラチアン民謡化した Hedy のシンギングとバンジョーやギターやフィドルの音色。英国系フォーク/トラッドという目線ではなく、親から子に Hedy 家で代々うたい継がれてきた庶民目線の民謡の味わいが深い。ふと Rosalie Sorrels の土着的な妖艶さを思い出した。ブックレットの解説もバッチリ。2018 作。Fldg'ling)

*SONGS OF CHRISTMAS FROM THE ALAN LOMAX COLLECTIONS A

(お宝発掘。Alan Lomax が英国、アイルランド、イタリア、スペイン、米国南部、カリブ海地域で収録したクリスマス音楽と宗教音楽。Bob&Ron Cooper,Ewan MacColl,Seamus Ennis,Sacred Harp SingersGeorgia Sea Island Singers 他による 31 曲。全在庫品ラップ包装なし。1998 作。Rounder)

[CD/ＤＥＮＭＡＲＫ]

*HELENE BLUM & HARALD HAUGAARD:Julerosen B

(デンマークの歌姫 Helene Blum とデンマーク屈指のフィドラーの Harald Haugaard のデュオによる 2016 年作。本作はクリスマス･シーズン向けの「祝祭」と「祈り」のアルバムで、Helene のレパートリーはデンマークのトラッドや Emil Bønnelycke のようなデンマー

クの詩人の詩や隣国のトラッドにまで及び、それらの「祝祭」と「祈り」の詩歌を軽やかに、厳かに、楽しげにシンギングする。クレジットにはない 11 曲目に収められたヒドゥン・トラックは Helene の清楚なシンギングによる胸キュンな曲。DVD 型 CD。2016 作。Westpark)

[CD/ＦＩＮＬＡＮＤ]



(Päivi Hirvonen)

*PAIVI HIRVONEN:Alku - The Beginning B

(Okra Playground のシンガーでリラ奏者の Päivi Hirvonen のソロ。フィンランドのトラッドの土俗的な味わいを強く持った野性味あるシンギングと、同じく自身が奏でる野性味あるリラの演奏は、Okra Playground でぶっ飛んだのと同じくらいぶっ飛んでしまった。彼女がフィンランドのトラッドに傾ける情熱はもの凄い。フィンランドの民謡に宿る魂を感じ取り、全身全霊を傾けてシンギングし、リラをノイジーに、ときに稲妻のように、ときに妖精が踊るように奏でる。これまでに出逢ったフィンランドの女性シンガーでピカー。彼女歌の先生でもある。凄いシンガーが育ちそう。スウェーデンの Lena Willemark クラス。2018 作。Nordic Notes)

*OKRA PLAYGROUND:Ääneni Yli Vesin B

(Päivi Hirvonen,Maija Kauhanen,Essi Muikku の女性シンガーのシンギングをフィーチャーした三姫三太郎のどでかいフィニッシュ・トラッド・バンドの新作で三枚目。この三枚目で初めて彼らの音楽を聴いたが、ノッケからぶっ飛んでしまった。ヴァルティナをさらに磨き上げたフィンランド・スタイルのトラッドという印象で、三姫の力強いシンギングとカンテレ、フィドル、リラ、アコにドラムスとエレキベースを加えたワンランク上を志向する音楽は、深くルーツ志向でありかつ、ロックの勢いを持った無敵のトラッド。10 曲中９曲が伝統的な詩歌にメムバーが民謡スタイルの曲を付けたもので、古びた民謡が新たな命を得て、躍り出す。2018 作。Nordic Notes)

*AALLOTAR:Ameriikan Laulu B

(Aallotar はフィンランド系米国人のシンガーでフィドラーの Sara Pajunen とフィンランド人のシンガーでアコ奏者の女性二人組。16 歳の時に米国に移住したという Sara の祖母の出身地は Teija Niku の出身地から数時間内という。Sara の祖母と Teija とが同郷というよしみで共演し、生まれたのが本作。その「よしみ」

という力は、二人を記憶の中のフィンランド民謡を二人の女性らしい優しい感性とスタイルでそっと蘇らす。二人のシンギングも演奏もフィンランド民謡の侘び寂びの心や心髄とも呼びたいものが息づいていて、感動的。フィンランド音楽ファンの深く琴線に触れる音楽。2018 作。Nordic Notes)

*KAREN TWEED･TIMO ALAKOTILA:Mid Summer May Monday C

(Karen&Timo のアコーディオンとピアノの演奏から編み出される音楽はアイリッシュ、スコティッシュ、ノルディックを中心に多彩だが、音楽性云々以上に音楽が自由で、朝露のように爽やかで、思いっきり健やか。昔フォークフェス通いをしていた頃、キャンプ地などでミュージシャン達が自由なセッションをしていたときに耳にしたような音楽とその風景を思い出してしまった。ゲスト:Catriona McKay{９曲も演奏}。2017 作。Akero)

*KARL SKAARUP:Musiker A

(fRoots 誌で絶賛した評者だけではなく、この 85 年の音楽人生を数える 85 歳の老人の若々しいアコーディオンには舌を巻く。この歯切れのよいリズムが何とも気持ちいい。孫の年齢の Kristian Bugge がフィドルで一体となった演奏を繰り広げるが、音楽には年齢差は一切ない。P20 の英語ブックレット付。2009 作。Go')

[CD/ＳＷＥＤＥＮ]

*DOGGERLAND:No Sadness Of Farewell B

(英国人 Richard Burgess{ｳﾞｫｰｶﾙ、ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ、ｷﾞﾀｰ他)とスウェーデン人北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin{ｷﾞﾀｰ、ﾊｰﾃﾞｨｰｶﾞｰﾃﾞｨ}の二人組"Doggerland"のデビュー作。英国フォーク＆トラッド的感性なのだが、北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくって、夢想的というか、Richard のシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック･サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。Richard Burgess のシンギングに加えて、Anders の演奏を含む二人の演奏の見事さは、まさに孤高。w.Kevin Henderson,Mats Eden。2017 作。Westpark)

[CD/ＮＯＲＷＡＹ]



(Lisa Lestander)

*LISA LESTANDER:Sanger Fran Norr II B

(Kraja の Lisa のソロ二枚目。本作は Lisa のスウェーデン北部ノールランド地方に伝わる伝承曲集。盲目の鍵盤奏者の Mats Öberg とサックス奏者の Jonas Knutsson の二人のサポートを得て制作された本は、歌姫 Lisa の極北的に透明感のあるシンギングは凛として最高

潮。音楽的にはノルウェーのトラッドの王道とは異質な、オーロラのような不思議な彩りのあるサウンドが即興的に施されていて、Lisa がうたう素朴な伝承歌の極北的ファンタジックさを高めている。二人とも Lisa と同じスウェーデン北部の町ウーメオ育ちで、故郷への想いや故郷の四季や風景のイメージも音で彩った印象で、独創的でちょっと特別感のあるノルウェーの伝承歌の世界だ。2018 作。Westpark)

*MARGRETE NORDMOEN:Skal Du Langt B

(逢ったことのない昔々に生きた人々のことに想いを馳せながら、古謡をうたうのが好きで好きでたまらないと言う歌姫 Margrete の本作は、Margrete の自然体の北欧トラッド・スタイルのシンギングと Vegar Vardal のフィドルと Annar Nohre のギターの、これまた自然体の素朴で気品のある北欧風アコースティック・サウンドが心地よい新鮮度と好感度抜群の北欧トラッド・アルバム。Margrete のシンギングは、ただ唄が上手いというだけではなく、広い野原で伸び伸びとシンギングしているような活き活き感があって、気分が晴れやかになる。Margrete の唄に寄り添う演奏も北欧のフレッシュな空気に充ちて温かい。2018 作。Ta:lik)

*WIZARD WOMEN OF THE NORTH a

(ノルウェーのトラッド・シンガーとミュージシャン{Tone Hulbaekmo,Annbjorg Lien,Sinikka Langeland,Aurola Borealis,Asne Sunniva Soreide,Kirsten Braten Berg,etc}を中心にフィンランドから Tallari{1 曲}と Tellu{2 曲}そしてスウェーデンから Susanne Rosenberg{2 曲}を加えた編集 CD。全 19 トラック。1998 作。Heilo)

[CD/ＬＡＴＶＩＡ]



(Leilai)

*LEILAI:Samtaina Tumsa/Glowing Dreams B

(ラトヴィアの夢想シンガーの Leilali による不思議音楽。ラップランドのヨイクやフィンランドの民謡を浄化したようなハミングやシンギングで、一種独特な極北ムードの瞑想音楽を創作している。音楽は全編厳かさで、暗闇の中で Leilai の声が光の線を描く感じ。あるいは夜大地に寝そべって、星空を眺める感じ。実際、ディスクやブックレットなどには満天の星の写真。一曲目と二曲目のタイトルは"Dream"が付けられ、三曲目からラストの九曲目までのタイトルは"Lullaby"が付けられている。だれもが夢の中。2018 作。Lauska)

[CD/BELGIUM,FLANDERS]

*THE HELEN FLAHERTY BAND:Gazing At The Moon B

(元 Shantalla のヴォーカルで屈指のスコットランド人トラッド･シンガーの Helen Flaherty の新ケルティック･バンドのデビュー作。メムバーは Ies Muller{ﾌﾙｰﾄ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Philip Masure{ｷﾞﾀｰ､ｼﾀｰﾝ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Siard de Jong{ﾌｨﾄﾞﾙ､ﾌﾞｽﾞｰｷ､ｳﾞｫｰｶﾙ}。Shantalla と同じく音楽性はアイリッシュを中心にしたケルティックだが､Helen の名を冠しただけあって､本作は Helen のシンギングと Philip Masure のギター＆シターンの妙技を要に､フィドルとフルートがケルティックな芳香を添えるという音楽創りが成されていて､Helen のたおやかなシンギングは､かつてなく優艶で実に味わい深い。あまり気がつかないことだが､メムバーによるコーラスがドローンのような効果を出していて､心への響きが深い。一人のトラッド･シンガーとしても円熟を極めている。タイトルではないが､｢お月見｣で夢うつつ気分。2018 作。Appel)

*SHANTALLA:Shantalla A

(Helen Flaherty{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾊﾞｳﾛﾝ},Kieran Fahy{ﾌｨﾄﾞﾙ},Joe Hennon{ｷﾞﾀｰ},Gerry Murray{ｱｺ､ﾌﾞｽﾞｰｷ他},Michael Horgan{ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ､ﾌﾙｰﾄ､ﾎｲｯｽﾙ}の一姫四太郎から成る､デビュー作からトップ･ケルティック･バンドの躍り出た Shantalla の飛びっ切り｢旬｣のデビュー作。1999 作？Wild Boar Music)

*NARAGONIA QUARTET:Mira B

(Toon Van Mierlo{ｱｺ､ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ}と Pascale Rubens{ｱｺ､ｳﾞｧｲｵﾘﾝ}のオリジナル･メムバーに Maarten Decombel{ｷﾞﾀｰ､ﾏﾝﾄﾞｰﾗ}と Luc Pilartz{ｳﾞｧｲｵﾘﾝ}を加えた Naragonia Quartet の新作。CD をかけ始めるや､聴き親しんだ Naragonia サウンド。三年前の前作の最後の曲に続く曲が本作の一曲目と思ってしまうほど､少しずつ曲調を変えながら､風の流れや水の流れのように曲がつながっているようなそして落ち葉がヒラヒラ舞い踊るようないつもの彼らの音楽。2018 作。Home)

[CD/ＧＥＲＭＡＮＹ{Roots Rock}]

*HIDDEN AGENDA DELUXE & OH SUSANNA:Angels In The Snow A

(ドイツのヴェテラン･アメリカン･ロック･バンドの Hidden Agenda Deluxe がカナダの女性 SSW の Oh Susanna をメムバーに招いて制作したクリスマス･アルバム。The Band の"Island"収録の"Xmas Must Be Tonight"で The Band 風いぶし銀ロックで幕開けする本作は､いぶし銀アメリカン･ロックから SSW 風そして Oh Susanna のヴォーカルをフィーチャーした女性 SSW 風と聴かせ所色々で､しかも一曲一曲の完成度が高く､味わいが深い。彼らの熟達したロックも聴き惚れるが､バンドのヴォーカルを担う BJ Baartmans と Eric Devries は SSW としても凄い魅力で､SSW 風仕立てのクリスマス･ソングも聴き惚れてしまう。それに Oh Susanna が花を添えてる感じだ。本作でドイツにメチャかっこいいアメリカン･ロック･バンドがいることを初めて知った。本醸造アメ

リカン･ロック･ファンがクリスマスに聴くアルバムは本作に決定！2018 作。Continental）

[CD/ＧＡＬＩＣＩＡ]



（Tanxedoras）

*TANXEDORAS:1952. Homenaxe A Alan Lomax　B
（ガリシア南部の女性ヴォーカル･トリオ"Tanxedoras"の新作で三枚目。本作は民俗音楽録音収集･映像記録･研究家の Alan Lomax のトリビュート･アルバム。パンデレータ（タムバリンの一種）や打楽器を伴奏楽器にして叩き、快活にうたう彼女達の唄は、1980 年代にスペインのフォーク･ミュージックを聴き始めた頃によく聴いたガリシアのフォーク･ミュージックを思い起こさせる。他の地域のケルト音楽グループの影響を受けた Milladoiro のようなガリシアン･バンドとは味わいを異にした土俗色濃厚な素晴らしい音楽がギュッと詰まっていて、感動的。大地の歌声。2018 作。全 17 曲。Inquedanzas Son）

*CHOUTEIRA:Folla De Lata　B
（ガリシアの歌姫 Uxia をヴォーカルに据えた異色のガリシアン･トラッド･バンドの Chouteira の 2000 年の三枚目。面白いのは、ガイタやパンデレイタやアコなどの馴染みの楽器に加えて、サックスやチューバやトランペットなどの管楽器が加わっていて、イングランドなら Brass Monkey のような音作りを加えていること。このサウンドは、ケルティックなガリシアン･トラッドに耳慣れたファンには目新しく響くが、ある意味むしろ南欧～地中海の民俗音楽的な響きでもあって、むしろ土俗性を増しているようにも感じられる。Uxia の孤高のシンギングも絶品。2000 作。Boa）

*NA LUA:As Fases De Na Lua　B
（ガリシアを代表する歌姫 Uxia を擁したガリシアを代表するトラッド＆フォーク･ロック･バンド"Na Rua"の 20 周年記念アルバム。既発表音源からの全 18 曲。ガリシア独特なケルティック･サウンドは、今聴いても鮮烈。2001 作。Boa））

*UXIA:Estou Vivindo No Ceo（1995 作。Nubenegra）　C

[CD/ＩＴＡＬＹ]

*ROSAPAEDA:In Forma Di Rosa　B
（南イタリアの歌姫 Rosapaeda の 2001 年のアルバム。彼女のアラブ＝地中海風味香るヴォーカルと敏腕演奏家達による汎南イタリ

ア～汎地中海音楽的にスケールの大きな民俗色豊かな音楽。
2001 作。Sottosuono)
*N.C.C.P.:Teatrante A
(副題"Con Le Piu BelleCanzoni"。ライヴ音源２曲を含む全 11 曲。
2001 作。Warner Europe)
*ANGELO BRANDUARDI:Gulliver,La Luna E Alti Disegni C
(開封。1992 作。EMI)

[CD/ＳＡＲＤＩＮＩＡ]
*ELENA LEDDA:Làntias B
(サルディーニャの歌姫の Elena Ledda の 15 枚目。80 年代に出逢って、サルディーニャの伝統音楽に根ざした地中海の香りを含んだ彼女のエキゾティックでエレガントな音楽の虜になってしまったが、あれから 30 年あまり経っても、サルディーニャの伝統音楽に根ざした彼女の地中海風味のエキゾティックでエレガントなシンギングと音楽は不変。例えば Loreena McKennitt のような夢想的なムードが漂っていて、ある種桃源郷のような境地にも感じられる音楽だ。2017 作。Sard)

[CD/ＭＥＤＩＴＥＲＲＡＮＥＡＮ]
*MARIA DEL MA BONET･AL TALL ¥2790
:Cancons De la Nstra Mediterrania(1992 作。BMG)
*MARIA DEL MA BONET:Ellas Canta M.Theodorakis C
(1993 作。BMG)
*MARIA DEL MA BONET:El Cor Del Temps D
(二枚組。1997 作。PICAP)
*MARIA DEL MA BONET:Raixa(2001 作。World Muxxic) C
*PAVLO:Fantasia C
(ギタリスト Pavlo によるマジカルな汎地中海メロディ。アラブ～ラテン～汎地中海風味の全 13 曲。1999/2004 作。Justin Time)

[Blu-ray/ＵＫ] PAL all regions
*ALLAN TAYLOR:50 Years On The Road D
(2016 年 5 月、ドイツのノルトハイムで行われた Allan Taylor の弾き語りによるライヴ。半世紀に及ぶ音楽活動を振り返る選曲で、実際と心の旅を続ける Allan Taylor の真骨頂のシンプリシティに徹した心温まる全 13 曲。尚、通常のブルーレイ･プレイヤーでの再生は可能だが、テレビ内蔵のプレイヤーでは音楽のみの再生になる。2017 作。Stockfisch)

[WALTONS 教則 DVD] NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*TOMMY HAYES:Bodhran,Bones&Spoons D
(教則 DVD＋Tommy Hayes,Steve Cooney,Charlie Lennon,Gerry O'Connor,Cormac Breathnach によるライヴ。Waltons)
*CONOR LONG:Bodhran Absolute Beginners D

(教則 DVD＋Conor Long,Paul McNevin,Gerry O'Connor によるライヴ。Waltons)
*CHARLIE LENNON:Irish Fiddle Complete Techniques D
(教則 DVD＋Charlie Lennon,Tommy Hayes,Steve Cooney,Gerry O'Connor,Cormac Breathnach によるライヴ。Waltons)
*P.J.HERNON:Learn To Play B&C Button Accordion D
(教則 DVD＋P.J.Hernon,Steve Cooney,Gerry O'Connor,Nie Kilduff,Anthony Warde によるライヴ。Waltons)

[DVD/ＧＵＩＴＡＲ] NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*STEVE TILSTON:Guitar Maestros Series 1 D
(音質画像選曲全てが素晴らしい S.Tilston のｷﾞﾀｰ弾き語りﾗｲｳﾞ映像。鮮やかなﾌﾗｯﾄﾋﾟｯｷﾝｸﾞ･ｷﾞﾀｰの伴奏による弾き語り"Here Comes The Nights"から SSW の Steve の弾き語りの世界に吸い込まれる。"Main Featue の８曲､"Additional Track"の８曲の計 16 曲のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽがｽﾞｰﾑｱｯﾌﾟで楽しめる。2006 作。Sound Technics)
*GORDON GILTRAP:Guitar Maestros Series 1 D
(美麗ｱｺｰｽﾃｨｯｸ･ｷﾞﾀｰの G.Giltrap。"Main Feature"では 8 曲をｲﾝﾀﾋﾞｭｰを挟みながら､Gordon の音楽の歩みを辿るようにｱｺｰｽﾃｨｯｸ･ｷﾞﾀｰとﾀﾞﾌﾞﾙ･ｱｺｰｽﾃｨｯｸ･ｷﾞﾀｰを神業的名演奏を披露する。"Additional Track"には神業的名演奏が 9 曲{こんな美しい"Here Comes The Sun"は聴いたことがない!}収録。加えてｴﾚｷ･ｷﾞﾀｰ演奏のﾜｰｸｼｮｯﾌﾟのおまけ付き。ｷﾞﾀｰ･ﾌｧﾝ極楽保証。片面 NTSC でもう片面が PAL。2006 作。Sound Technics)

[DVD/ＵＳＡ] NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance A
(B.Springsteen の初期のベスト･ライヴ集。全 14 曲。1988 年/2005 年。American Legends)
*WILLIE NELSON:Willie A
(91 年の"The Great Outlaw Valentine Concert"{全 14 曲}と"Nashville Superstar Concert"{全 12 曲}。88 分。2002 作。MVD)
*TONY JOE WHITE:In Concert A
(92 年ﾄﾞｲﾂのﾗｲｳﾞ･ﾊｳｽでの熱いﾗｲｳﾞ。全 11 曲。約 60 分。ﾄﾞｲﾂInakustik)
*JOHN HIATT:Live From Austin Tx A
(開封。1993 年のライヴ。w.Davey Faragher,Michael Urbano,Michael Ward。全 14 曲。2005 作。New West)
*STEPHEN STILLS AND MANASAS:The Best Of Musikladen A
(72 年のﾃﾚﾋﾞ･ｼｮｰのﾗｲｳﾞ映像。40 分。Pioneer)
*CROSBY,STILLS & NASH:Live In L.A. A
(1982 年ﾛｻﾝｾﾞﾙｽの New Universal Amphitheater でのﾗｲｳﾞ。全 23 曲で 80 分。2007 作。ｵﾗﾝﾀﾞImmortal)

[DVD/ＵＳＡ] PAL all regions

*WILLIE NELSON&LEON RUSSELL:In Concert a
(Paradise Show のﾗｲｳﾞ。Leon{ﾋﾟｱﾉ}と Willie{ｷﾞﾀｰ&ﾋﾟｱﾉ}のｱｺｰｽﾃｨｯｸなｿﾛ&ﾃﾞｭｴｯﾄそして Maria Muldaur&Bonnie Raitt そしてﾌﾙ･ﾊﾞﾝﾄﾞの数曲は二人の持ち味がたっぷり楽しめるﾗｲｳﾞ。55 分。2005 作。ﾄﾞｲﾂAll Stars)
*JAMES TAYLOR:In Concert a
(副題"You've Got A Friend"。ﾊﾞﾝﾄﾞ付き 18 曲入ﾗｲｳﾞ。"Sweet Baby James"から変わらぬ James の温厚な人柄がそのままかつ音楽性もｼﾝﾌﾟﾙなのからﾎﾟｯﾌﾟでﾌｧﾝｷｰなのまでそのままの温かﾗｲｳﾞ。2004/2005 作。82 分。ﾄﾞｲﾂAll Stars)

[DVD/ＵＳＡ] NTSC Region１
※NTSC Region１専用 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰかﾊﾟｿｺﾝで再生可能
*DAVID BROMBERG:Recorded Live In Concert At Iowa State D
University 1985(55 分。Umbrella Entertainment)
*JIM CROCE:Have You Heard ― Live A
("You Don't Mess Around With Jim","Operator","Bad,Bad Leroy Brown"他全 15 曲入ﾗｲｳﾞ。約１時間 10 分。2003 作。Shout)

[DVD/ＵＫ] NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES
:Live At Stazione Birra,Rome ¥1500
(Albert Lee&Hogan's Heroes のﾛｰﾏでの約 2 時間の白熱のﾗｲｳﾞ。70 年代の Albert Lee のｽﾀｲﾙ{ｶﾝﾄﾘｰ･ﾛｯｸ}そのまま。全 25 曲。112 分。2009 作。Heroic)
*ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES:Live In Paris ¥1500
(2003 年ﾊﾟﾘでの約 2 時間のﾗｲｳﾞ。どっぷり 70 年代ｽﾀｲﾙのｶﾝﾄﾘｰ･ﾛｯｸ～南部ﾛｯｸのｱﾒﾘｶﾝ･ﾛｯｸの世界。全 22 曲。102 分。Heroic)
*JOE COCKER:In Concert ¥1500
(81 年の白熱のｺﾝｻｰﾄ･ﾗｲｳﾞ。"Feelin' Alright","A Whiter Sahde Of Pale","Watching The River Flow","Delta Lady","You Are So Beautiful","With A Little Help From My Friends"他 Joe Coccker の十八番ｵﾝﾊﾟﾚｰﾄﾞの 13 曲。ｽﾜﾝﾋﾟｰな南部ﾛｯｸも最高。2003 作。ﾄﾞｲﾂAlpha Centauri)
*MEIC STEVENS:An Evening With Meic Stevens C
(2007 年 7 月､ﾛﾝﾄﾞﾝでのﾗｲｳﾞ。ﾃﾞﾋﾞｭｰ時は｢ｳｴｰﾙｽﾞのﾎﾞﾌﾞ･ﾃﾞｨﾗﾝ｣と呼ばれたこともあった Meic だが､今は齢を重ねた Randy Newman のようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSW の中の SSW を実感させる全 15 曲収録のﾗｲｳﾞ映像だ。2008 作。Sunbeam)

[DVD/ＩＲＥＬＡＮＤ他] PAL
※PAL 方式再生可能 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝでのみ再生可能
*PETER HORAN:Still Beating Time D
(2003 年､Michael Coleman Heritage Centre 制作のｽﾗｲｺﾞｰのﾌｨﾄﾞﾙ奏者 Peter Horan{1926-2010}のﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰ･ﾌｨﾙﾑ。John Carty,Matt

Molloy,P.J.Hernon,Seamus Quinn それぞれのﾌﾟﾚｲﾔｰとの息をのむ生演奏を含む約40分。彼が残したものは大きい。Comhaltas)

[DVD+CD/ＩＲＥＬＡＮＤ] NTSC all regions

※国内製DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能

*OUT OF IRELAND Deluxe Edition B

(1995年発売のｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ移民の歴史を記録したDVDとｻﾝﾄﾗCDとｾｯﾄのﾃﾞﾗｯｸｽ版。ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞで1840年代に見舞われたｼﾞｬｶﾞｲﾓ飢饉でｱﾒﾘｶへの移住を余儀なくされたｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ人移民の物語。95分。CDの音楽はﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰのMick MoloneyにJohn Doyle,Seamus Egan,Tommy Hayes,Eileen Ivers,John Williams,Jimmy Keane,Donna Long,Eugene O'Donnell,Jerry O'Sullivan。本ﾃﾞﾗｯｸｽ版は2009年発売。Shanachie)

[DVD/ＩＲＥＬＡＮＤ] PAL all regions

※PAL専用DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝで再生可能

*MARY BLACK:Live At The Royal Albert Hall D

(1992年のライヴ。全13曲。2007作。3U)

*BANISH MISFORTUNE "Irish Dance Tunes" A

(ﾌｨﾄﾞﾗｰのMeabh O'Haraが案内する素晴らしきｱｲﾘｯｼｭ･ﾐｭｰｼﾞｯｸの世界が楽しめるﾗｲｳﾞDVD。収録場所はﾊﾟﾌﾞだったり、自宅だったり、野外だったり、小川のそばだったり様々。出演順にThe Campbells,Different Drums Of Ireland,Cannon Bonner Dancers,Meabh O'Hara&Bernard Kelly,Cran{Wow!},Liz Doherty,Meabh O'Hara&Donal O'Conor,O'Connrs,,Meabh O'Hara&Conor Byrnes,Eoin Kenny&Joe Dunne,Conor Byrne,Terry Corcoran&Larry Egan,Mary McNamara Tony Linnane Andrew McNamara&Brendan Hearty,Roisin Ni Mhainin,Fintan&Sheena Vallely。2000作。Foreigh Media)

*CHRISTY MOORE:Uncovered ¥1000

(C.MooreのCabinteely Houseという家でのｱｯﾄ･ﾎｰﾑながら唄の心のこもったｳｫｰﾑなﾗｲｳﾞ映像。ほとんどは気心の知れたDonal Lunny&Declan SinnottとのﾗｲｳﾞだがJimmy McCarthyやShane McGowan{ﾃﾞｭｴｯﾄするがC.Mooreの唄の方が熱い}やJohn SpillaneやSinead O'Connorをｹﾞｽﾄに迎え、それぞれとﾃﾞｭｴｯﾄする構成。CDやｺﾝｻｰﾄ･ﾗｲｳﾞでは味わえない凄くC.Mooreらしい唄の数々だ。名曲ずらりの全23曲。2001作。RTE)

---

*カタログの紙版に少し余白が出来たので、最後にＤＶＤを載せました。

*11月11日(日)に行った娘の(生山)早弥香が主宰する生山アイリッシュハープ教室の「11周年記念＆第10回湯布院教室発表会」は思いの外楽しい記念＆発表会になりました。いつもは発表会とお茶会のみでしたが、今回はミニコンサート付き。この11年の間に、ハープ教師になった音姫さんが二人。そして普段演奏活動をする音姫さんが何人も育っていて、たっぷり楽しいコンサートになりました。音姫さん達からは「発表会とは別にミニコンサート＆お茶会をしまし

ょう！」という声も上がっています。
*ブロードキャスターのピーター･バラカンさんが 11 月 10 日に湯布院で出前 DJ をやるというのを知って、「11 周年記念＆第 10 回湯布院教室発表会」にお誘いしたら、ご都合がつかず、9 日の昼前に時間を作ってもらって、出前 DJ の会場まで徒歩数分の義姉夫妻宅でバラカンさんと一時間ほど談笑しました。もちろん共通の趣味の音楽の話を中心にバラカンさんと共通の友人や知人のことなどお互い思いつくままに楽しく語り合いました。
*ぼくが学生時代にレコード係りをしていたブラックホークにも来られたことがあって「お静かに」と注意されたとか。バラカンさんは最近、ぼくがバイトをする前にブラックホークでウェイトレスをしていた女性と一緒に DJ をしたことがあるそうで、早速そのぼくと同じ年のブラックホーク･チルドレンの方とメル友になりました。話の中で一番面白かったのはバラカンさんが日本にくることになった経緯でした。来年また湯布院に来たいそうで、再会を今から楽しみにしているところです。
*11 月末、シアトルのアイリッシュ系シンガーの Colleen Raney から「今日本ツアー中で、あと一つで終わるんだけど、帰りの荷物を減らしたいの。よかったら新譜を買ってくれない？」のメール。Colleen は 20 数年前にシアトルで行われた Magical Strings のコンサート（Colleen の姉さんの Sarah は Magical Strings のブレニンの奥様）で会ってからの知り合い。「荷物減らし手伝うか」と思って買ってあげて聴いたら、これが大当たり！それにしてもよその子が大きくなるのは早い！
*最後のページを印刷する直前に堀田はりいの新しい本の刊行が決まりました。出版社は『神宿る沖ノ島』（タムボリンにて発売中。税無しで 1800 円）と同じ右文書院です。夏休みに書き上げたあと、新たに書き加えたいことが出てきて、予定より２～３ヶ月遅れますが、新年４月の刊行予定です。書名を含めて、本の詳細は新年の通販カタログ第一号でお知らせ出来るかと思います。
*今年最後のあとがきは、近況報告みたいになってしまいました。今年も一年大変お世話になりました。2018 年最後のご注文をお待ちしています。（船津）



発表会のあとのお茶会＆ミニコンサート